



わき 脇れい子 神奈川県議会議員

かながわ未来県議団

議会報告 2024年4月

だれひとりとり残さないとも生きる神奈川へ

令和6年度
当初予算成立

人口減少社会に
おける

子ども・子育てへの支援

2025年脱炭素社会の実現

災害に強いかながわ に向けて



神奈川県議会は2月13日から3月25日まで(会期42日間)令和6年第1回定例会が開催され、すべての議案が可決されました。令和6年度当初予算の総額は、4兆5,117億7,700万円。(内訳:一般会計2兆1,405億1,200万円、特別会計2兆2,469億3,700万円、企業会計1,603億2,000万円)私は、3月12日~3月15日開催の予算委員会で、「基金の活用について」と「若年層のがん対策について」質疑を行いました。

【令和6年度の主な事業】

子ども・子育てへの支援

●妊娠・出産支援の強化

…3億6,263万円

不妊治療費(先進医療分)の助成支援、若い男女が妊娠・出産を含む将来のライフプランを考えて日々の生活や健康に向き合うプレコンセプションケアの推進

●私立高等学校等生徒学費補助の拡充

…43億9,425万円

年収約700万円未満の世帯までの授業料及び住民税非課税世帯までの入学金の実質無償化、多子世帯は、授業料実質無償化の対象を年収約910万円未満まで拡大と年齢要件の緩和

生活困窮者への支援

●困難な問題を抱える

女性に対する支援 …7,682万円

社会とのつながりを維持した新たな女性支援施設の設置、複合的な問題を抱える女性の総合相談窓口の設置

医療・介護施策の推進

●救急医療相談(#7119)の 全県展開

…3億1,175万円

適切かつ継続的な救急医療提供体制の維持、適正受診の促進と救急車の適正利用の観点から、24時間365日の電話相談(#7119)を県主体で全県展開

●介護生産性向上推進事業費

…7億2,555万円

介護施設等への介護ロボットやICTの導入に対する補助、新たに介護現場の革新、生産性向上に向けた取組方針の検討等を行う会議の開催、ワンストップ型の相談窓口の設置

共生社会実現への取組

●地域生活移行の取組 …8,960万円

中井やまゆり園等の施設利用者の地域生活移行に向けて、移行先グループホームに対する補助、先駆的なグループホーム運営の事例調査を新たに実施

●県立障害者支援施設の 方向性ビジョンに沿った取組

…1億2,292万円

県立障害者支援施設の地方独立行政法人化、民間移譲に向けた取組など

教育の質の確保と学びの保障

●不登校対策の強化

…1億7,670万円

校内教育支援センターに支援員を新たに配置(中学校区174人)、県立高校等へスクールソーシャルワーカーを新たに配置(31人)など

脱炭素社会の実現に 向けた取組

●中小企業の脱炭素化の 取組への支援

…13億8,101億円

省エネルギー診断やCO₂排出量管理システムの導入に対する支援、省エネルギー設備や自家消費型再生可能エネルギー設備導入に対する補助など



【裏面へ続く】

安全で安心してらせる神奈川の実現

●災害に強いかながわに向けた取組

…1,449億8,075万円

新たな地震防災戦略の策定、能登半島地震を踏まえた緊急災害対策の実施、水防災戦略の推進

●犯罪被害者等見舞金制度の創設

…5,000万円

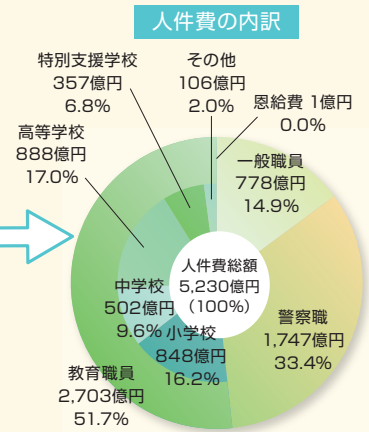
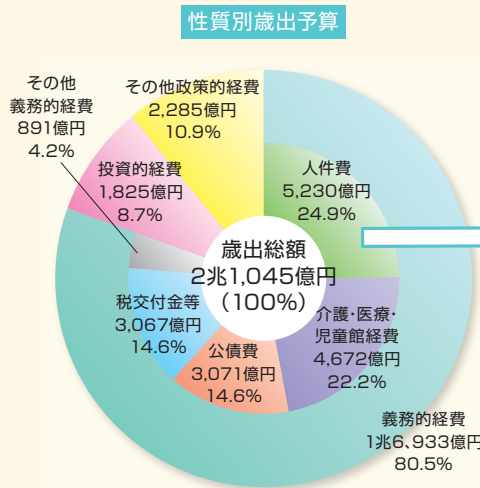
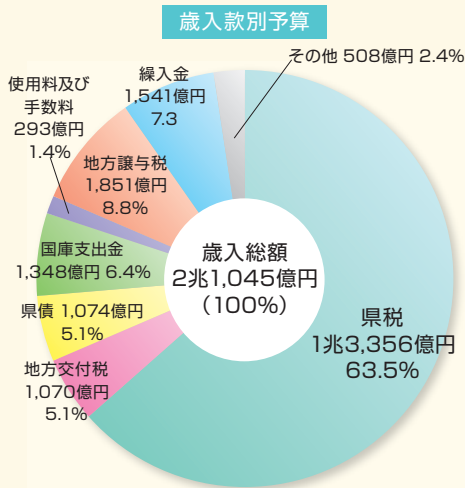
深刻な犯罪被害を受けた方を対象とした見舞金制度を創設

●「かならいん」における証拠採取等の実施体制の整備

…7,358万円

かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」の運営、証拠採取等の対応医療機関の拡充、新たな証拠保管庫の整備など

【令和6年度一般会計当初予算歳入歳出予算】



「新かながわグランドデザイン」策定

神奈川県自治基本条例第20条に規定する「総合計画」として、2040年を展望した神奈川の将来像や県の政策の基本方向を示したものです。3つの将来像「誰もが安心してらせるやさしい神奈川」「誰もが自らの力を発揮して活躍できる神奈川」「変化に対応し持続的に発展する神奈川」の実現に向けて、進歩の著しいデジタルの力を活用し、安心してらせる社会の実現をめざします。

新かながわグランドデザインに関連し、予算委員会で総括質疑



県独自の基金の活用は、県民に見える形で

県では、重点的な課題に対し、中長期的な視点に立ち複数年継続して取り組むことができるよう、税収増等により確保した県独自の基金を設置しています。令和4年度2月補正予算で、子ども・子育て施策の充実に向けた取組に80億円、脱炭素社会の実現に向けた取組に135億円の基金を積み立てました。基金の活用用途や金額について質疑の中で確認をしましたが、基金の活用事業などは、予算議案や予算に関する説明書などを見てもわからず、目的に適した事業への活用や活用額など明確に示す「見える化」の必要性を指摘。当局からは、基金の活用について、当初予算で示すようにする、との前向きな答弁がありました。

県独自の基金の活用については、税収増等により確保した財源を基金設置目的の事業に最大限活用し、その効果を県民に還元することを求めました。



ご意見
ご要望は

わき
脇れい子

政務活動事務所

〒251-0026
藤沢市鶴沼東4-6 藤沢奥田ビル203

経歴
1957年 辻堂生まれ
藤沢市立高砂小、市立海洋中、
県立平塚江南高校、日本女子大学文学部卒
2011年より藤沢市議会議員 2期
2019年より神奈川県議会議員 現在2期目

現在
厚生常任委員会 委員
予算委員会 委員
かながわ未来県議団 政務調査会 副会長

TEL: 0466-90-4737 FAX: 0466-90-4740
Email: wakireiko.office@gmail.com